

3858 ユビキタス

佐野 勝大 (サノ マサヒロ)

株式会社ユビキタス社長

スマートエネルギー、車載への市場変更で投資が先行

◆平成 26 年 3 月期総括

平成 26 年 3 月期業績は、売上高 7 億 64 百万円(前期比 14.3%減)、営業利益マイナス 4 億 41 百万円(前期実績はマイナス 52 百万円)、経常利益マイナス 4 億 39 百万円(同マイナス 43 百万円)、当期純利益マイナス 5 億 49 百万円(同 97 百万円)と、大幅な営業損失を生じる結果となった。

なお、本年 2 月に発表した修正予測は、売上高 7 億 20 百万円(期首発表予測は 9 億 30 百万円)、営業利益マイナス 5 億円(同マイナス 80 百万円)、当期純利益マイナス 6 億 2 百万円(同マイナス 80 百万円)であった。売上高は既存顧客のロイヤリティ収入が予測を上回ったことや、高速起動関連やネットワーク関連で新規顧客を獲得した結果、修正予測を上回った。また、経費圧縮や外注費の見直しによって利益を若干改善することができた。

当期業績のプラス要因として、まずネットワーク関連の大型案件で前払ロイヤリティを獲得した。昨年 9 月には、村田製作所、ルネサスエレクトロニクスと車載分野での 3 社協業を発表し、実質的な活動を開始している。この 2 年間開発を続けてきた IoT クラウドプラットフォームは今年 2 月に完成し、サービス事業の収益の柱として、ようやく事業化の運びとなった。

マイナス要因としては、これまで収益の柱としていたゲーム、デジタル家電分野の市場環境が大きく変化したため、昨年度から市場・顧客セグメントをスマートエネルギー、車載へと変更した。組織体制の変換は完了しつつあり、顧客窓口や顧客の一部獲得も始まっているものの従来の水準までは追いつかず、収益化が長引いたことで減収減益となった。新規分野(車載、IoT)への展開に伴う研究・開発期間が長期化したことや、固定資産減損による特別損失 1 億円が発生したことも減益要因となっている。

成長に向けた対策では、「成長市場への注力と強みを生かした展開」として、自動車、スマートライフ/スマートエネルギーを注力分野と位置づけている。それに伴い、「組織改編による意思決定の迅速化と効率的な開発体制の確立」に取り組んでいく。さらに「業務提携強化による事業拡大・加速」として、村田製作所との協業範囲拡大、半導体、モジュールベンダーとのアライアンスを加速していく。

◆ゲーム分野が大幅に減収

形態別売上高の内訳は、使用許諾 3 億 89 百万円(前期比 2 億 43 百万円減)、受託開発 2 億 23 百万円(同 30 百万円増)、製品売上高 88 百万円(前期はゼロ)、サポート 54 百万円(前期比増減なし)、その他 9 百万円(同 2 百万円減)となっている。

形態別売上構成比の変化として、使用許諾 50.9%(前期は 70.9%)は、おもにゲーム分野のロイヤリティが収束したため減少した。受託開発は 29.2%(同 21.6%)、製品売上高 11.6%は、当期より始めた住宅のエネルギーマネジメント関連のハードウェア販売である。サポートは 7.1%(同 6.2%)、その他 1.2%(同 1.3%)となった。

売上製品構成として、ネットワーク 47.7%(前期は 59.6%)が依然として主力となっており、サービスプラットフォーム 21.1%(同 2.1%)が新規事業として立ち上がりつつある。データベースは 17.3%(同 16.9%)、高速起動(同

21.5%)となっている。ネットワークは、ゲーム分野の売上減に伴い減少した。

貸借対照表において、流動資産のその他が2億44百万円(前期比2億82百万円減)に減少しているのは、満期を迎えた有価証券を現金及び預金に移したためである。固定資産5億94百万円(同1億49百万円減)では、1億円の減損を計上した。

◆中期3カ年経営計画を見直し

新中期3カ年計画として、平成27年3月期は、売上高8億円、営業利益マイナス3億50百万円を予想している。事業環境の変更に伴う体制変更と成長に向けた足がかりとして、開発投資や新規顧客の開拓を含め、投資先行が継続する見通しである。

平成28年3月期は、売上高11億50百万円、営業利益10百万円と黒字転換を計画しており、着実な収益原資の積み上げと次世代の製品サービスの充実を図っていく。

平成29年3月期は、売上高15億円、営業利益1億50百万円を目指し、本格的な収益化と着実な成長を遂げていきたい。この3カ年で、次の成長へ向けた組織および収益基盤を確立していく。

今後、ユビキタス社会が実現していく中で、ネットワークの接続技術やクラウド技術を連携させて生活の利便性を高めることが注目されている。そこに欠かせない要素技術を作り続けることによって、収益力を向上させていきたい。そして東京オリンピックが開催される平成32年(2020年)までには、売上高30億円、営業利益率25%以上を達成していきたいと考えている。

これからの成長市場として、スマートエネルギー、スマートライフ、スマートカーの3つの分野において、卓越した組込みソフトウェア、コネクティビティ技術とクラウドプラットフォームを融合したIoTソリューションによって、スマート社会の実現に貢献することを目指している。

事業分野別中期目標として、平成29年3月期に組込ソフトウェアは売上高10億50百万円、サービス事業は売上高4億50百万円を掲げている。

◆事業分野別中期目標

組込みネットワーク関連では、売上高予測として平成27年3月期に4億円、平成29年3月期には6億円を目指している。

現状として、車載メディアネットワーク関連、Miracast/HDCPといった車載機器向け案件が活発化している。デジタルテレビ/レコーダーからの新製品対応開発は継続しているもののロイヤルティ収益は減速しており、今後は新しい接続技術を車載向けに展開するといった連携を進めていく考えである。またイメージング機器での大型ロイヤルティ案件の獲得や、HEMS機器を中心にECHONET Lite採用が活発化している。

重点取り組みとして、車載機器、スマートエネルギー、スマートホームのネットワーク向けの技術・製品開発を強化していく。同時に、インターネットやクラウド技術と連携した次世代無線、コネクティビティ技術、製品・複合サービスの研究開発と商品化を加速していく。また、村田製作所との協業連携による収益拡大と、半導体、モジュールベンダー、代理店などのパートナーシップ強化による拡販を強化していく。

データベース関連は、売上高予測を平成27年3月期1億10百万円、平成29年3月期1億円とし、ほぼ横ばいに推移するものと考えている。一定の技術開発は終結しており、今後は利益貢献していくことが見込まれる。安定的に顧客を獲得していくことで、収益に大きく寄与することが可能である。現状として、デジタルカメラ向けロイヤルティは減少し、OA、産業機器向けの新規案件の獲得とロイヤルティ収益が安定している。既存顧客からのプロシューマ機器、車載機器向けのロイヤルティ収益も継続している。重点取り組みとして、車載機器、OA、産業機器を中心とした長期安定収益の確保と新規開拓を推進していく。Internet of Things 機器向けデータ管理ソリューション研究開発も行う。

高速起動関連は、収益化に時間がかかってきたが、ようやく一定の収益化のメドがつつある。売上高予測として、平成 27 年 3 月期 1 億 10 百万円、平成 29 年 3 月期 3 億 50 百万円を見込んでいる。

現在、JVC ケンウッドの AV ナビゲーションシステム“彩速ナビ”主力シリーズへの継続搭載や、富士通テン“ECLIPSE”の新規採用等、複数プロジェクトで採用されている。海外からの引き合いも増えており、目指していた収益率を確保できるものと考えている。

重点取り組みとして、車載機器分野でのシェア拡大と車載機器メーカーの自動車メーカー向け OEM 純正モデルでの長期継続採用獲得、開発パートナー企業との連携による案件対応規模および収益拡大、半導体メーカーとの連携による対応 SoC の拡大とプラットフォーム展開を進めていく。

サービス関連については、売上高予測として、平成 27 年 3 月期 1 億 80 百万円、平成 29 年 3 月期 4 億 50 百万円を計画している。

重点取り組みとして、“dalchymia”のパートナー連携による拡販展開、車載、スマートライフ、ヘルスケアといった特化型ソリューション展開を進めていく。センサーデバイス+IoT プラットフォームソリューション展開、クラウド HEMS「Navi-Ene」の OEM 展開などにも取り組んでいく。

平成 27 年 3 月期の収益計画は、売上高 8 億円、営業利益マイナス 3 億 50 百万円、経常利益マイナス 3 億 50 百万円、当期純利益マイナス 3 億 53 百万円と、開発投資の先行する状況が続く見込みである。平成 28 年 3 月期には、売上高 11 億 50 百万円、営業利益 10 百万円、経常利益 10 百万円、当期純利益 5 百万円と収益を均衡させ、平成 29 年 3 月期からは、売上高 15 億円、営業利益 1 億 50 百万円、経常利益 1 億 50 百万円、当期純利益 1 億 45 百万円を見込み、収益化を加速することを目標としている。

分野別売上高見通しでは、引き続きネットワーク関連が中心となることは変わらない。高速起動関連は採用プラットフォームの量産が拡大しつつあり、今期は控えめの売上予測としている。

(平成 26 年 5 月 14 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見るができます。

http://www.ubiquitous.co.jp/ir/library_4.html